

化、日本文化への興味、物事に積極的かつ主体的に取り組む態度など、子供たちの体験参加後の成長を感じていることが分かる。

表9 保護者から見た体験事業参加後に「子どもの成長」「子どもの変化」を感じられる点(回答12人)

- ・お手伝いをしてくれるようになった。片付けをするようになった。少しだけ自分で考えて行動するようになった。
- ・彼女は次女ということもあり、直ぐにふざけてしまったり、一つの事を始めるともう一つを忘れてしまったりと、何かを任せられるという感じではありません。今も大きくは変わらないのですが、ヒントを与えると、ハッと思い出すというか直ぐに修正できるようになりました。おちゃらけキャラなので、何処でも愛されるタイプかと思っているので心配はしていないのですが、成長と共に生活のメリハリを習得していってくればと期待しています。今回の4泊の旅では、お友達と過ごす事が目的でした。普段、姉と過ごしている事が多く、阿吽の呼吸で物事が通じてしましますが、お友達相手では何かを変えなくてはいけない。コミュニケーション力も必要になって来ます。大人になってからの社会生活ではコミュニケーション能力は非常に重要と考えていますので、友達、スタッフの方々と共に過ごす事により、協調性も身に付けられたのではないのでしょうか。貴重な体験を通じて、一回り大きくなったのではないかと思います。
- ・やってもらう事が当たり前前の生活から、両親に自分から何か手伝う事がある声をかけてくれるようになりました。「ありがとう」とお礼の言葉かけも聞かれ、日常の中で自然な気遣いを感じる事が増えました。
- ・禅のやり方、意味などを学んできたようで、以前に比べると物事を落ち着いて捉えられるようになったように感じます。何かイラッとした時など一旦落ち着くなどできるようになったように思います。夏休み時は友達とのトラブルもありましたが、2学期始まってからは友達とも仲良く、特にトラブルもありません。まわりとの共存を学んで帰ってきたように思います。本人にとって、非常に有意義な時間になったと思います。
- ・まず参加して1週間ほどは、背筋を伸ばしてご飯を食べていたこと、朝自分で起きたことに驚きました(その後はいつものように戻ってしまいましたが...笑)またいろいろ学びが多かったようで、覚えたことを細かく説明する姿も今まであまり見なかったので参加させて良かったなと感じました。もちろん中にはちょっと苦手なお友達もいたようですが、なんだかんだ自分なりに接し方を考えたり、ケンカせず上手く過ごせたことにもいい経験だったと感じました。同じ小学校の5年生の子と学校で会った時も声をかける仲にもなり、今年の運動会では、そのお兄さんとリレーの選手に選ばれ同じチームになったそうで、参加したことによる出会いによるご縁も感じています。
- ・家の中でも親子での会話が以前より増えたように思います。
- ・興味の幅が広がったように感じます。行く前は「お寺に泊まるの怖い」「友達いないし心配」などと本人は言っていたのですが、親は大丈夫だと言いついて連れていきました。帰ってきたら、お坊さんが話してくださった内容をよく覚えていて教えてくれたり、おかゆがすごく美味しかったとか色々話してくれました。具体的に体験することでイメージが大きく変わったようです。初めて会ったお友達と体験を共有するのも楽しかったようです。今後、未知の世界にチャレンジするための自信になるの

ではないかと思います。

- ・夏休み明けから、朝勉強するようになりました。以前から試みるものの三日坊主で続かなかったのですが、4泊5日の旅のあとから、積極的に行うようになりました。今回、子供に身につけて欲しかった事は、自分で考え行動するという事。4泊という長い期間、親から離れて過ごすことにより、少し出来るようになったのではと感じています。また自然の中でのアクティビティにより、不慣れた環境の中での創意工夫で生きる力が少しでも身につけてもらえたのではないかと考えています。子供の時のこのような体験は、絶対に大人になってからも生きてくると考えています。単なる夏休みの思い出というのではなく、将来に続く貴重な体験をさせていただいたと感謝しています。
- ・周りの友達に流されずに自分の意志で行動するようになりました。例えば、ある空手の稽古に友達が行かないなら自分も行かない、ではなく、知り合いがいなくても自分のために稽古に行くというような事です。
- ・以前より外に出るようになった気がします。以前は、家に閉じこもりがちでしたが、朝早く起きて散歩に出掛けており、友達とも公園に出掛けて遊ぶことが増えました。また、あまり関心がなかった日本文化についても興味を持ち始めたようにも見えます。
- ・何事にも積極的になってきたようです。新しい事に勇気を持って挑戦していて、学校生活をこれまで以上に楽しんでいます。今回の宿泊体験は、不安な気持ちのまま参加しましたが、最後はとても楽しかったと興奮していました！良い思い出になったようで、最近でも体験した内容が話題に出てきます。また、初めて会った子たちと仲良くなれたことも嬉しかったようで、6年生のお友達の頼もしさや優しさを見習って、妹や年下の子に対して、優しく声をかけてあげられるようになってきたようです。
- ・今回は最高学年ということもあり、本人なりにお友達に対して色々心配りをしていました。様々な活動についても、とても前向きに取り組んだようで、帰宅後の会話の中にマイナスの感情は一つもありませんでした。今、学校では運動会の練習が佳境を迎えています。これまで、自分が中心になって物事に取り組む事はありませんでした。今回の運動会では実行委員になり、自ら中心となってダンスを創り上げているようです。この他にも、以前より積極的、前向きになったと感じる姿を目にすることが増えました。このような変化は、やはり『古来から続く文化に触れる』に参加させて頂き、4泊5日親元から離れ、様々な体験をしたことで得た自信の表れだと感じています。
- ・弟に対して少し優しくなりました。菩薩様に詳しくなりました。

◎ 事業評価・執筆

安永 明智(やすなが あきとも)

文化学園大学国際化学部・教授。
九州大学大学院人間環境学専攻博士
後期課程修了(博士・人間環境学)。
専門は健康心理学。
日本健康支援学会・評議員。
主な著書：
「健康心理学・シリーズ健康心理学と仕事12」
(分担執筆) 北大路書房。



自然と向き合い、
自然の中で、
気づきを得る。
竹でごはんを炊き、
大山豆腐をつくる。
魚を焼き、
自然の恵みを食す。

成果報告書

縄文弥生体験、大山詣り体験、
宿坊体験、座禅体験、写経・浄書体験、
山や森、お寺で過ごす。
神奈川県の西部、自然に恵まれた地。
自然の一部である
という考え方である。

古来から続く ふ る く 文化に触れる。

子どもたちの
豊かな心を育む
神々の大地で
体験プログラムの
4泊5日の
交流体験事業

令和5年度 文部科学省委託
「体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト」
子供たちの心身の健全な発達のための自然体験活動推進事業

【自然・じねん】とは、
われわれ人間も
自然の一部である
という考え方である。

神奈川県知事登録旅行サービス手配業第59号
一般社団法人 神奈川大井の里体験観光協会
〒258-0012 神奈川県足柄上郡大井町柳 248
TEL/FAX : 0465-43-6309
E-mail : office@taikenkankou.com
HP : http://taikenkankou.com



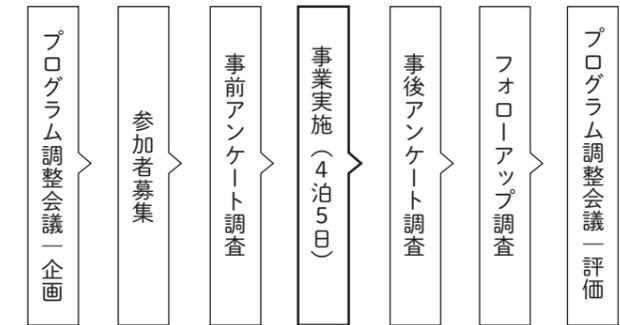
古来から続く ふるく文化に触れる。



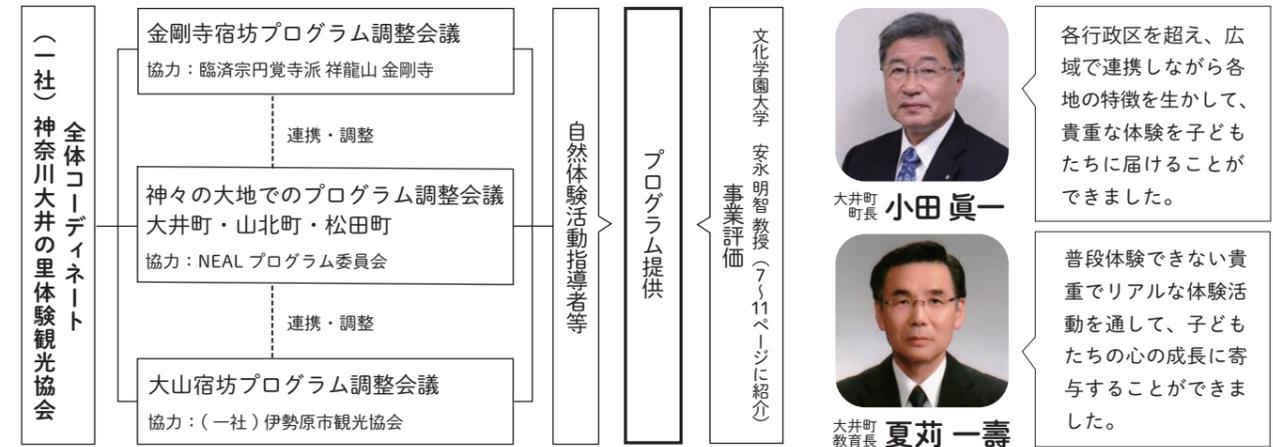
■実施要項

日時：2023年8月21日（月）15:00 集合
～25日（金）11:30 解散の4泊5日
場所：南足柄市・山北町・大井町・松田町・伊勢原市
対象：小学校4～6年生、14名
費用：36,000円（宿泊代・食事代・保険代など）
内容：3～6ページにそれぞれ掲載
主催：（一社）神奈川大井の里体験観光協会
協力：（株）丹沢交通
後援：神奈川県教育委員会

■全体像



■実施体制



■参加者募集チラシ



本事業の趣旨 / 文部科学省「委託要綱」より引用

体験活動等の推進は、社会教育法等の法律に規定されているとおり、青少年の健全育成及び人格形成のために必要不可欠なものであり、第3期「教育振興基本計画」（平成30年6月15日閣議決定）においては、子供たちが達成感や成功体験を得たり、課題に立ち向かう姿勢を身に付けたりすることができるよう、体験活動を充実することが示されている。

また、「経済財政運営と改革の基本方針2022」（令和4年6月7日閣議決定）においては、非認知能力の育成に向け、様々な体験活動を推進することが明記されており、次代の社会を担う者として新たな価値を創造する力、対立等を克服する力、責任ある行動をとる力等を身に付けていくためにもリアルな体験活動が重要である。

一方で、少子化や核家族化、デジタル化が進む中、青少年のリアルな体験活動が不足している。さらにコロナ禍でこの傾向に拍車がかかっている。また、貧困、障害、不登校、外国籍等、様々な課題を抱える青少年や特別なニーズのある青少年への支援が社会的課題になっている。

これらを踏まえ、文部科学省においては、地域や企業と連携し全ての青少年に学校内外でのリアルな体験活動を推進することとしている。

以上を踏まえ、青少年のリアルな体験活動の機会の充実を図るため、体験活動に関する普及啓発や調査研究、民間企業が実施する優れた取組に対する顕彰事業の実施、自然体験活動のモデル事業を実施するとともに地域や企業と教育機関の連携促進のための体制構築を図ることで、社会

全体で体験活動を通じた青少年の自立支援を一層促進する。

本事業の目的

小学校学習指導要領解説道徳編にて、「子どもたちに必要とされる豊かな人間性とは、美しいものや自然に感動する心などの柔らかな感性、正義感や公正さを重んじる心、生命を大切に、人権を尊重する心などの基本的な倫理観、他人を思いやる心や社会貢献の精神、自立心、自己抑制力、責任感、他者との共生や異なるものへの寛容などの感性及び道徳的価値を大事にする心であるととらえられる。このような心の育成を図るのが心の教育であり、その基盤としての道徳教育なのである」と記されている。昨今、子どもの置かれた環境が悪化する中、都心部の喧噪から離れ、身も心も清められる神社やお寺、山、森にて宿坊や座禅、写経体験、森林浴や自然との対峙などを通じ、子どもの心の教育に寄与することを目的とする。

本事業の概要

今までの感覚では考えられないほどのスピードで、子どもの教育の状況や子どもが置かれた環境が変化している。また、教育における課題も山積し、社会の変化と融合してますます複雑化している。

このような状況下、新しい時代に対応するため教育基本法や学校教育法が改正されており、それを踏まえて、自身を見つめ、他者との関わりを醸成する力を養うため、子どもたちの穏やかな心を育み、未来を拓く力を育成する「心の教育」についての検証を行った。

南足柄市 金剛寺・宿坊体験

禅龍山金剛寺で体験する貴重な時間。お寺は怖いところではない。人々が幸せになれるよう、さとりを開かれたのが仏様。本堂に蚊帳を張り、就寝前にお香を焚いて坐禅に浸る。目覚めとともに朝課、坐禅。食事をいただき、作務を終えて写経をする。自身と対峙する時を過ごした。



2023年
8/21
月曜日

- 15:00 集合
- 15:30 オリエンテーション
- 16:00 アイスブレイク・グループ分け
- 16:30 グループワーク「地蔵探し」
- 17:30 蚊帳の設置
- 18:30 夕食
- 19:30 坐禅体験
- 21:00 残香とともに就寝



2023年
8/22
火曜日

- 05:30 起床
- 06:00 朝課
- 06:30 坐禅体験
- 07:00 朝食
- 08:00 作務
- 08:30 写経体験
- 10:00 出立



アイスブレイク。はじめましての交流タイムで子どもたちは打ち解け合い、学年が混じり合うようにグループワークを行なった。その後は、グループでの交流を深めるため、グループワークとして、ヒントを頼りに境内にあるお地蔵さんを探すゲームを実施。境内の位置関係や周辺の状況を把握するきっかけにもつながった。

蚊帳の設置。お寺の本堂に布団を敷いて寝る。もちろん、クーラーなどはない。本堂の扉をすべて開けたまま寝るため、暑さより蚊との戦いになることが予想されたので蚊帳を張った。はじめての蚊帳に子どもたちは興奮気味であった。

坐禅体験。夕食のあとは、坐禅体験を行なった。まずは座位で挑戦。足の組み方や姿勢、呼吸の仕方などを習った。仏様とはどういった存在なのか、決してお寺は怖いところではないというようなお寺についてありがたいお話を拝聴し、心落ち着かせて坐禅体験を行なった。その後、就寝準備を済ませて残香とともに就寝となった。

学んだ。「一つには功の多少を計り彼の来処を量る」(食事がここに至るまでの多くの人々の手間と自然の恵を思い、「二つには己が得業の全關と付って供に必ず」(この食事を食べるのに値することをしたか、自分の行いを振り返って)、「三には慎を防ぎ過貧等を離るるを宗とす」(むさぼりやわがままの心を離れて)、「四には正に良薬を事とするは形枯を療ぜんが為なり」(元気な体を保つための良い薬として)、「五には道業を成ぜんが為に当に此の食を受くべし」(自分の目標を達成するための力の源としてこの食事をいただきます)。また、配膳や盛りつけの仕方、食事のとり方などの教えもいただいた。

作務。すなわち、お寺での労務、掃除である。境内と本堂に分かれて掃除をした。長い廊下の雑巾掛けや、竹箒で砂利へ模様をつけることなどを学んだ。

写経。手に塗香をすり込み、心身を清めたら墨をすり、準備の整った人から「祓詞」見本に従って願いを込めて写経を行った。書き終えた用紙はお寺へ奉納した。



朝課。起床後、布団をあげ、着替えを済ませたら、お焼香をして、朝一番のお経を唱えた。そして、坐禅となる。朝は、椅子を使って行った。呼吸法や姿勢など、だいぶ様になってきたようだ。

朝食。食事をする前の五つの心得として「五観文」を



西丹沢溪流・命をいただく山北町

山北町の奥。酒匂川に注ぐ支流、河内川を上流へ向かう。丹沢湖を過ぎてさらに進む。山がすぐそこにある。山に降った雨が川となって流れる。透き通った水は川底まで見える。そんな恩恵を受け育ったヤマメの命をいただく。二千年、この風景を見守ってきた杉がある。

- 11:00 命をいただく「ヤマメ釣り体験」
- 12:30 昼食
- 13:30 山の探検「森林セラピー」
- 15:45 山の探検「樹齢2000年の箒杉探索」
- 18:30 夕食
- 20:30 女将の紙芝居
- 21:00 就寝



2023年
8/23
水曜日

- 06:30 起床 (荒天のため散歩は中止)
- 07:30 朝食
- 09:00 出発



魚釣り。丹沢湖をさらに上流にのぼり、西丹沢溪流釣場へと向かった。「五観文」の教えを思い出し、清流で育った八丁ヤマメを釣り、命をいただく。しかし、相手も必死である。子どもたちがはしゃぐと魚も釣られまいと身を潜めてしまう。魚との真っ向勝負！お互い真剣だ。一時間の格闘の末、比較的、警戒心の少ないニジマスへと標的を変更。皆が魚が食いついた時のブルブルッという命の感触を感じることができた。

溪流探検・森林セラピー。神奈川県立西丹沢ビジターセンターから吊り橋を渡り、支流沿いに奥へと進む。木々に囲まれた川の流れて歩いて歩き、マイナスイオンを存分に感じる。途中、川に足をつけて身体の火照りを冷やす。気持ち良い！そして、またさらに奥へと進む。太い木が倒れ、そこに苔が茂る。それをまたぎ越えてまた進む。たどり着いた先では、サワガニを探したり、石で水を堰き止めたり、ポールを使って川の中で水が流れる音に耳を傾けたり、存分に1/fのゆらぎを体感した。体が冷える前に前に、下山することとした。

箒杉の見学。樹齢2000年を越える杉、箒杉。この地に根を下ろしてから、ずっと同じ風景を見守り続けてきた。杉の葉を手ですり潰して香りを嗅ぐ。森の香りが感じられる。フィトンチッドの効果を実感する。まさに、杉の香りですり潰して香りを感じることができた。

女将。箒沢荘の女将。箒杉には及ばないが、この地に居を構えて同じくこの風景を見守り続けてきた。女将のつくる「みほ弁」がうまい！これは昼ごはんに頂いた。夕食はみんなが釣った八丁ヤマメ・ニジマスを焼いてもらった(本来は自分たちで炭を起こして焼く予定が、天候が不安定であったためプログラムを変更)。魚の



↑ポールを川の中に浸けると水の流れる音が聞こえてくる。



塩焼きを口にすると思わず笑みがこぼれてしまう。誰もが命を無駄にすることなく、きれいにいただいた。そして、食後は女将の紙芝居。箒杉の言い伝えを紙芝居に。女将は箒杉とともに、またこの地に根を張り、この風景を見守ってきた。

大井町 二千年つづく里山・縄文弥生体験 松田町

この地は縄文から暮らしが営まれてきた。豊かな森があり水が湧く。代々受け継がれてきた自然林である。推定 800 年を超えるスタジイも息づく。二千年つづくこの地と向き合い、我々もその一部になる。森を管理して森を守る。水源を守る。暮らしを引き継ぐ。文化を残す。

10:00 原始火おこし体験	18:30 夕食	2023年 8/24 木曜日	06:30 起床・散歩
竹筒ごはんづくり体験	21:00 就寝		07:30 朝食
12:30 昼食			09:00 大地を眺める 「ドローン体験」
13:30 ブルーベリー アイスづくり体験			11:00 出発
15:00 縄文弥生「土偶」に会う ブルーベリー摘み体験			
16:30 出発			



松田町へ



伊勢原市へ

原始火おこし体験。「ひもぎり式」の原始の火おこし体験に挑戦した。2人ペアとなり支える人、紐を引く人に分かれる。2人の呼吸を合わせることや、お互いの力加減の調整がポイントとなる。一定の間隔で左右の紐を引き、摩擦を起こす。しばらくすると焦げ臭い香りが漂いはじめてきた。焦げた木の屑が溜まってきた。あと一息！というところでかんで棒が外れてしまった。現在の快適便利な生活とは裏腹に、昔の人の苦勞を思い知ることができた。

そのため、早くから稲作もはじまっていたようだ。そんな話を聞き、出土した土偶（正式には「土偶形容器」）を拝見する。女性をモチーフに模様が施され、頭頂部には穴があり中が空洞になっている。中には乳児の骨片や歯が納められていたという。2400年前との遭遇である！子どもからは様々な意見が飛び交う。「元にあった場所に戻してあげたら」と、何とものを得た意見に、こちらが言葉を失ってしまった。

竹筒ごはんづくり体験。大井町では荒れてしまった竹林整備の体験を行なっている。切り出した竹は資源を有効活用するため、竹筒ごはんづくりとして炊飯体験を行った。ノコギリで蓋になる部分に切り込みを入れ、ノミで割っていく。節に穴が開いたら、ごはんとお水を入れる。そして火にかける。この30～40分が待ち遠しい。炊き上がった後もすぐ開けない、蒸らしが重要。ふっくらごはんの炊き上がり！この地に伝わるけんちん汁とお昼になった。

ブルーベリーアイスづくり体験。ブルーベリーの最盛期を過ぎた頃、熟したブルーベリーがたわわに実をつけている。この果実を丁寧に潰し、牛乳を加えてアイスをつくる。と言っても冷凍庫など文明の力は不要である。氷と塩を使ってアイスづくりに挑戦した。氷に塩をまぜると氷が速く溶け、急激にまわりの温度を下げる。そうして0度より低い氷水ができる。この仕組みを利用して固まらせる。2人ペアとなり、速く氷が溶け、全体が均一になるように容器に入れてコロコロと転がすこと約20分。



縄文弥生体験。大井町は知る人ぞ知る縄文弥生の舞台である。縄文人の住居跡やストーンサークル、縄文晩期～弥生初期頃の土偶などが出土している。シイ、タブ、カシなどの自然林が残り代々更新されてきた森が残る。まさに、神々の大地である。森が豊かだと水を蓄えてくれる、森は天然のダムである。森のおかげで水が豊富である。

蓋を開けたとたん歓声が響き渡った。ブルーベリーを追加トッピングしていただいた。

大杉。寄神社にある樹齢約500年の大杉。山北町で出逢った2000年の箒杉と比較してみると、どちらも圧巻！という言葉に尽きる。この地でずっと見守り続けている。

大山・宿坊体験 伊勢原市

大山は古くから山岳信仰の対象であった。その山頂からは祭祀に使われたとされる縄文土器が発掘されている。この地も古来から人が息づく大地である。祀られているのは阿夫利神社。お寺は仏様、神社は神様である。最後の日、万物の創造主の前で旅への感謝の意を伝える。

12:00 昼食	06:30 起床・散歩	2023年 8/25 金曜日	07:30 朝食
13:00 大山正式詣り（阿夫利神社）	09:00 浄書体験		09:00 浄書体験
18:30 豆腐づくり体験・夕食	10:00 ふりかえり		10:00 ふりかえり
21:00 就寝	11:30 解散		11:30 解散



俯瞰。ドローンを使ってこの地、神々の大地を上空から眺めてみる。山が茂り、川が筋をつくる。その傍に人家がある。その中に自分たちが映り込む。山や森に比べるとちっぽけな存在である。そんなことに気づいたか否か。せっかくの機会なので、子どもたちもドローン操縦に挑戦！意外と難しいが、そこはさすが現代っ子。あっという間に操縦にも慣れ、8の字飛行や、物を潜り抜いたり、遊びとなって発展してく。

豆腐づくり体験。大山の豆腐は郷土料理である。その昔、各地から奉納された大豆と地元の清水を利用して作ったのがはじまりとされている。雨降山の名の如く多くの雨が降り、良質な水があるので、おいしい豆腐ができる。そんな名産、豆腐づくりを体験した。蒸した大豆の味見からはじまり豆乳をつくる。熱々の豆乳に各自がにがり投入。それぞれの感覚で攪拌して静止。しっかり固まった人、少し緩めの人など、同じ材料でもいろんな豆腐ができることに驚きであった。

大山正式詣り。別名「雨降山」とも呼ばれる大山は、雨乞いや五穀豊穰祈願だけではなく、商売繁盛にも御利益がとされ、江戸庶民の信仰と行楽の地として人気のあった大山阿夫利神社。ここは、鳶などの職人たちが江戸から巨大な木太刀を担いで詣りをするべく山頂を目指す、庶民の参拝場所であった。今も引き継ぐ、先導師の案内で我々もいざ出陣！あいにくの天候ではあったがカッパを着て出発。雨降山という所実感する。途中、雨宿りもしながら参道を奥へと進む。すぐに雨も上がり、

浄書体験。4泊5日の締めくくりに浄書を行った。仏教では写経と呼ぶ。5日間の出来事をふりかえり、心を込めて大山に伝わる祓詞を書き記す。金剛寺での写経にはじまり、己と向き合い、他者を受け入れる時間を過ごす。山や川、森では、自然が我々を受け入れてくれる。そんな自己との対峙の時間をふり返り、心を落ち着かせる。お互いに感謝の念を込めて。最後に良い時を過ごせた。きっとここでの体験が役に立つ時が来るだろう。



霧が立ちこめる中の幻想的な参道を突き進む。到着後、行衣に着替え、阿夫利神社下社での正式詣りを行った。昔、江戸から運んできたという巨大な小太刀を見せていただく。その大きさに唖然とした。そして、ここは神社。祀られているのは神である。初日に滞在したお寺との違いを子どもたちが思い返すきっかけとなった。



事業評価（概要版）

本調査は、令和5年度「体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト」（文部科学省）の委託事業である「古来（ふるく）から続く文化に触れる。」（2023年8月21日～25日）（以下「体験活動」とする）の事業評価を目的に実施した。

具体的には、体験活動が参加者（子供たち）の心理的・行動的側面に及ぼす影響について検討した。

調査方法

◎対象者

本調査は、体験活動に参加した小学生14人を対象にした。その内訳は、男子8人（小学校4年生4人、5年生3人、6年生1人）、女子6人（小学校4年生3人、5年生2人、6年生1人）であった。

◎調査手続きと質問項目

体験活動への応募理由や体験活動が子供たちの心理的・行動的側面に与える影響などを検討するため、質問紙調査を体験活動参加前（事前調査；2023年8月中旬）、体験活動参加後（事後調査；2023年8月25日）、体験活動参加の約5週間後（フォローアップ調査；2023年10月上旬）

に実施した。質問項目は、委託事業の趣旨に沿って設定した。各調査の質問項目は表1に示す。

◎分析方法

連続変数に関しては平均値と標準偏差を、離散変数に関しては人数と割合をそれぞれ算出した。体験活動の参加前から参加後、参加後からフォローアップにかけての子供たちの心理的・行動的側面の変化については、Wilcoxonの順位和検定を用いて分析した。統計的有意水準は5%に設定した。また、子供たちの心理的・行動的側面の得点の変化を「向上（良い方向に変化）」「変化なし」「低下（悪い方向に変化）」に分類し、項目毎にその人数と割合を集計した。自由記述から得られた回答は、個人が特定できる情報を削除した上で、できる限り原文のまま掲載した。

※注 サンプル数が少なく、各変数の分布の正規性が確認できなかったため、ノンパラメトリック検定であるWilcoxonの順位和検定を用いた。

表1 質問項目

◎ 事前・事後・フォローアップ調査（共通） ※【 】は評価内容

以下、5段階（「とてもよくあてはまる」「ややあてはまる」「どちらともいえない」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」）から一つを選択

- Q. 自分のことが好きである。【自己肯定感】
- Q. はじめたことは最後までやりとげる。【困難を乗り越え物事を成し遂げる力】
- Q. 困っている友だちを助ける。【他者を思いやる力】
- Q. はじめて会った人（友だち）と仲良くなれる。【コミュニケーションを通じて人間関係を築く力】
- Q. 自然や生き物を大切にしたい。【豊かな情操や規範意識／公共の精神（環境・自然・文化に対する態度）】
- Q. 日本の文化（日本で昔から大切に受け継がれてきた暮らし方や風習、建物、行事など）を大切にしたい。【豊かな情操や規範意識／公共の精神（環境・自然・文化に対する態度）】

◎ 事前調査

以下、「参加したことがない」「1回参加したことがある」「2回参加したことがある」「3回以上参加したことがある」から一つを選択

- Q. 今までに宿泊を伴う自然体験学習に参加したことがありますか。
- 以下、「とてもよくあてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」から一つを選択
- Q. いろいろな人たちと友だちになりたい。【参加理由】
- Q. 自然のことをもっとよく知りたい。【参加理由】
- Q. 日本の文化（日本で昔から大切に受け継がれてきた暮らし方や風習、建物、行事など）をもっとよく知りたい
- Q. 今回のお寺や自然での体験をとおして自分を成長させたい（どの程度あてはまりますか、下記から一つ選んでください）

以下、自由記述

- Q. そのほかの応募理由があれば書いてください。
- Q. 今回の体験プログラムで楽しみにしていることを教えてください。

◎ 事後調査

- Q. 今回の体験プログラム「古来（ふるく）から続く文化に触れる。」の満足度は10点満点中何点ですか。すごく満足できた（10点）～全く満足できなかった（0点）を基準に点数をつけてください。
- Q. 今回、楽しかった、興味深かった体験を3つ挙げてください。そして、その体験のどのようなところが、楽しかった、興味を持った（驚きを含めて興味深かった）、印象に残ったかを教えてください。（自由記述）
- Q. 今回の体験を通じて自分が成長できたと感じる点を教えてください。（自由記述）

◎ フォローアップ調査

- Q. 体験プログラム「古来（ふるく）から続く文化に触れる。」に参加した後、学校やふだんの生活の中で「自分が成長できたなあ」と感じることはありましたか。小さなことでもかまいませんので、自分が「成長できた」「良い方向に変わった」と感じる点について教えてください。（自由記述）

◎ 保護者への質問

- Q. お子さんが、体験プログラム「古来（ふるく）から続く文化に触れる。」に参加した後、学校やふだんの生活の中で「成長した」「（良い方向に）変わった」と感じることはありましたか。小さなことでもかまいませんので、「成長できた」「良い方向に変わった」と感じる点について教えてください。（自由記述）

調査結果

1. 過去の宿泊を伴う自然体験学習への参加経験(事前調査)

「過去の宿泊を伴う自然体験学習への参加経験」を図1に示す。14人中10人（71.4%）が「参加経験がない」、3人（21.4%）が「1回の参加経験がある」、1人（7.1%）が「3回以上参加経験がある」と回答した。結果から、多くの子供たちが、宿泊を伴う自然体験学習にはじめて参加していることが分かる。

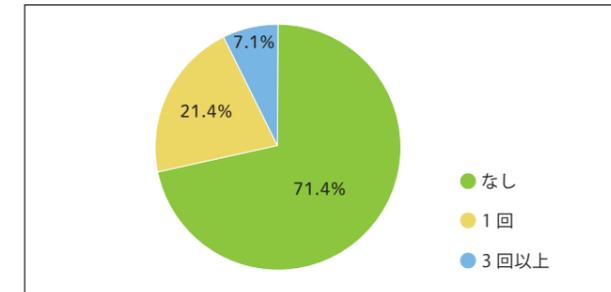


図1 宿泊を伴う自然体験学習への参加経験（回答14人）

2. 体験活動に応募した理由（事前調査）

「体験活動に応募した理由」を図2に示す。「いろいろな人たちと知り合いになりたい・友だちになりたい」に関しては、14人中8人（57.1%）が「とてもよくあてはまる」、4人（28.6%）が「ややあてはまる」、2人（14.3%）が「あまりあてはまらない」と回答した。「自然のことをもっとよく知りたい」に関しては、11人（78.6%）が「とてもよくあてはまる」、2人（14.3%）が「ややあてはまる」、1人（7.1%）が「あまりあてはまらない」、「日本の文化をもっとよく知りたい」と「体験をとおして自分を成長させたい」に関しては、12人（85.7%）が「とてもよくあてはまる」、2人（14.3%）が「ややあてはまる」と答えた。その他の応募理由（自由記述）は表2に示す通りである。結果から、多くの子供たちが「自然や日本の文化のことをもっと知りたい」「体験をとおして自分を成長させたい」という理由で体験活動に応募したことが分かる。また、自由記述の回答から、「夏休みの思い出づくり」「冒険心」「プログラムや自然への興味」「新しい友だちと共に学ぶこと」

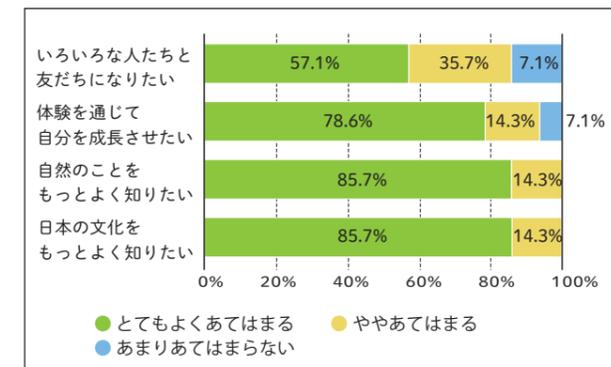


図2 体験事業に応募した理由（回答14人）

「昨年度参加し、今年も参加したかった」などの理由で応募したことが伺える。

表2 体験活動への応募理由（自由記述）（回答7人）

- ・授業で昔の時代の生活など学び興味をもっており、またテレビでも自然に触れる番組に興味があり体験してみたいと言っていたところ学校から配布されたチラシを見て参加しました。
 - ・夏休みの思い出作りになるから。
 - ・昨年と同じような体験プログラムに参加したから、また参加したいと思いました。
 - ・携帯を見ないで過ごす時間を作りたかったから。
 - ・家族と離れて1人で参加するという冒険をしたと思いました。
 - ・どのプログラムも楽しそうで興味があったから。
 - ・新しいお友達との共存の学習。
- ※保護者の代筆含む

3. 今回の体験プログラムで楽しみにしていること（事前調査）

「今回の体験活動で楽しみにしていること」を表3に示す。回答から、参加者は魚（ヤマメ）釣りや火起こし等の自然体験、アイスクリーム作りや竹筒ごはん炊飯の体験、宿坊体験や座禅、写経等の文化体験を楽しみにしていることが分かる。

表3 今回の体験活動で楽しみにしていること（自由記述）（回答14人）

- 【男子】
- ・魚釣り体験、自炊。
 - ・火起こし（よく家族キャンプでやっていて楽しいから）。
 - ・魚釣り。
 - ・ヤマメ釣り。
 - ・ヤマメ釣り、アイス作り、座禅体験。
 - ・お寺で座禅とかすること。
 - ・日本の文化が知りたいです。
 - ・ヤマメ釣り。
- 【女子】
- ・いろいろな初めての体験にチャレンジする事を楽しみたい。
 - ・2000年の杉見学。
 - ・写経、ブルーベリーアイス作り、豆腐作り等全部。
 - ・竹でご飯を炊く体験ご楽しみ。
 - ・山お寺での宿坊体験が楽しみです。釣りを火起こし、ブルーベリー摘み、水辺生き物観察も楽しみです。
 - ・写経や浄書の体験、火起こし、釣り。

4. 子供たちの心理的・行動的側面の変化（体験活動の参加前後）

「体験活動参加前後の子供たちの心理的・行動的側面の変化」を表4に示す。Wilcoxonの順位和検定の結果、全ての項目に関して、5%水準で統計学的有意な得点の変化は認められなかった。

また、体験活動参加前後の心理的・行動的側面の個人の得点の変化を「向上」「変化なし」「低下」に分類し、人数と割合を求めた結果を図3に示す。30%以上の子供たちで得点の向上が認められた項目は「はじめたことは最後までやりとげる」であった（14人中5人；35.7%）。

表4 体験事業参加前後の心理・行動的側面の変化 (回答 14人)

	参加前		参加後		p値
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
自分のことが好きである	3.9	1.1	3.9	1.5	0.748
はじめたことは最後までやり遂げる	3.7	0.7	3.8	0.4	0.739
困っている友だちを助ける	4.3	0.8	4.1	0.9	0.480
はじめてあった人(友だち)と仲良くなれる	3.8	1.1	3.8	1.2	1.000
自然や生き物を大切にしたい	5.0	0.0	4.7	0.6	0.102
日本の文化を大切にしたい	4.6	0.7	4.6	0.9	1.000

※得点範囲は0-5点・得点が高いほど好ましい傾向を示す。

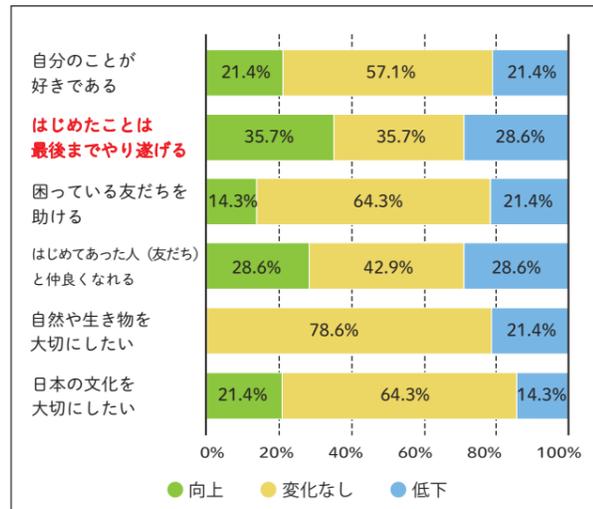


図3 体験事業参加前後の参加者の心理・行動的側面の変化 (個人の得点の変化) (回答 14人)

5. 体験活動の満足度 (事後調査)

子供たちの体験活動の満足度 (10点満点) は、「10点」が9人 (64.3%)、「9点」が4人 (28.6%)、「8点」が1人 (7.1%)、平均得点は9.6 (標準偏差0.6) 点であった。結果から、子供たちの体験活動に対する満足度は非常に高いことが分かる。

6. 楽しかった・興味深かった体験活動 (事後調査)

「楽しかった、興味深かった体験」を表5に示す。結果から、半数 (7人) の子供たちが、「ブルーベリーアイス

表5 楽しかった・興味深かった体験活動 (回答 14人)

全体順位		1位	2位	3位
1	ブルーベリーアイスづくり体験 (7)	3	2	2
1	火起こし (7)	3	3	1
3	竹筒ごはん炊飯体験 (6)	1	2	3
4	ヤマメ釣り体験 (5)	3	1	1
4	土偶を見たこと (5)	1	2	2
6	大山登山 (3)	0	1	2
6	川遊び・水遊び (3)	1	1	1
6	座禅体験 (3)	1	1	1
9	金剛寺と阿夫利神社での参拝	1	0	0
9	豆腐づくり体験	0	0	1

※2位の回答に欠損 (1) があるため合計は13人となる。

くり体験」と「火起こし」を楽しかった・興味深かった活動に挙げていた。また、「竹筒ごはん炊飯」「ヤマメ釣り体験」「土偶を見たこと」を挙げた子供たちも多くいた。

7. 体験活動に参加して自分が成長できたと感じる点 (事後調査)

「今回の体験を通じて自分が成長できたと感じる点」を表6に示す。多くの子供たちの回答に「協力 (きょうりょく)」という言葉が見られた。子供たちは、様々な体験活動に仲間と一緒に取り組むことで、他者と協力することの大切さを学び、コミュニケーションや社会性の向上を感じていることが推察される。また、自然や日本文化に触れることで、自然や文化に対する理解を深めたことも伺える。

表6 体験活動に参加して自分が成長できた点 (自由記述)

- ◎ **コミュニケーション能力や社交性の向上**
 - ・ みんなと協力すること。今回のアクティビティは協力が必要でそれがためになった。
 - ・ みんなで協力をして動いていたから、協力が大切だということをした。
 - ・ みんなと協力して助け合うことが大事だと思った。
 - ・ みんなときょうりょくするという事がすごく成長できたと思います。
 - ・ 10点～90点にかわった。なぜなら、いろいろな友だちができたし、たのしくできたから。
 - ・ 自然をさらに知ることができた点。
- ◎ **自然や文化に対する理解の深化**
 - ・ 4泊5日のたびでいろいろな体験ができてうれしかった。とくにきょうりょくなドグがみれてよかったです。
 - ・ お寺と神社のちがい思いなどをくわしくしれた。
 - ・ つりは魚とのしんけんしょうぶということが分かった。
 - ・ 昔からの火おこしやドグをみてとてもうれしかった。
 - ・ 一食のありがたみ等を思っご飯を食べるようになった。
- ◎ **その他**
 - ・ あきらめずがんばるというところが成長したと思います。大山に登る時、つらかったけどがんばってのぼったからです。

※「ドグ」: 土偶と想定できる

8. 子供たちの心理的・行動的側面の変化 (体験活動参加後からフォローアップ)

「体験活動参加後からフォローアップの子供たちの心理的・行動的側面の変化」を表7に示す。Wilcoxonの順位和検定の結果、全ての項目に関して、5%水準での統計学的有意な得点の変化は認められなかった。しかし、「困っている友だちを助ける」(p=0.096)と「はじめて会った人(友だち)と仲良くなれる」(p=0.084)に関して、体験活動参加後からフォローアップにかけて、10%水準で統計学的有意な得点の向上が認められた。

心理的・行動的側面の個人の得点の変化を「向上」「変化なし」「低下」に分類し、人数と割合を求めた結果を図4に示す。30%以上の参加者で得点の向上が認められた項目は、「はじめて会った人(友だち)と仲良くなれる」(14人中6人; 42.9%)と「困っている友だちを助ける」(14人中5人; 35.7%)であった。

結果から、体験活動への参加が、その後の学校やふだん

の生活における「他者を思いやる力」や「コミュニケーションを通じて人間関係を築く力」の醸成につながった可能性が推察できる。

表7 体験活動の参加後からフォローアップの子供たちの心理的・行動的側面の変化 (回答 14人)

	参加後		フォローアップ		p値
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
自分のことが好きである	3.9	1.5	4.0	1.1	0.480
はじめたことは最後までやり遂げる	3.8	0.4	3.9	0.8	0.527
困っている友だちを助ける	4.1	0.9	4.5	0.7	0.096
はじめてあった人(友だち)と仲良くなれる	3.8	1.2	4.4	0.6	0.084
自然や生き物を大切にしたい	4.7	0.6	4.9	0.3	0.257
日本の文化を大切にしたい	4.6	0.9	4.6	0.5	0.665

※得点範囲は0-5点・得点が高いほど好ましい傾向を示す。

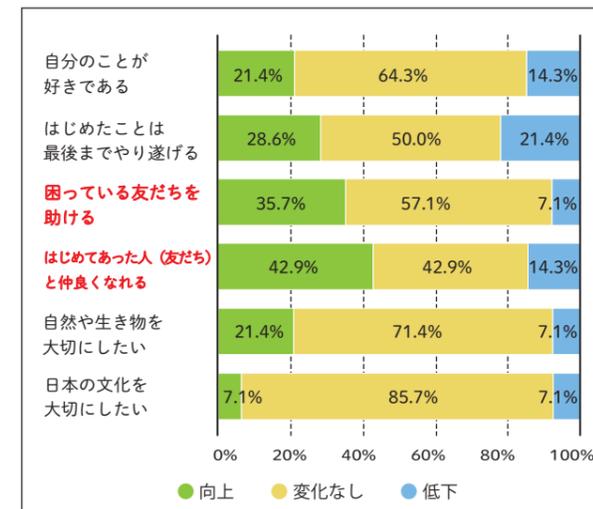


図4 体験活動の参加後からフォローアップの子供たちの心理的・行動的側面の変化 (個人の得点の変化) (回答 14人)

9. 体験活動の参加した後、学校やふだんの生活で

自分が成長できたと感じる点 (フォローアップ調査)

「体験活動に参加した後、学校やふだんの生活の中で自分が成長できたと感じる点」を表8に示す。回答から、子供たちは、体験活動参加後の学校やふだんの生活において、自然や日本文化に対する好ましい態度の醸成や興味・関心の深化、コミュニケーション能力や社交性の向上、好ましい生活習慣の獲得と自己管理能力の向上、主体的に物事に取り組む態度や困難を乗り越え物事を成し遂げる力の獲得などの成長を感じていることが分かる。

表8 体験活動の参加した後、学校やふだんの生活で自分が成長できたと感じる点 (回答 13人)

- ◎ **自然や日本文化に対する好ましい態度の醸成や興味・関心の深化**
 - ・ お地藏様に向かっては座るという事を知った。
 - ・ 生き物を大切にしようになった。
 - ・ 自然を感じられるようになり、大切にしようと思うようになった。
 - ・ いつも行かない場所へ行き、知らないことをたくさん

ん学ぶことができ楽しかったです。

- ・ 自然を大切にするようになりました。以前は、木の皮をめくったり、木にボールを当ててもなんとも思いませんでしたが、今はそのようなことはしなくなりました。
- ・ 不用意に虫を殺すこともなくなりました。
- ・ 日本文化が好きになりました。やはりお寺での体験を通じて、日本文化の良さを実感することができました。
- ・ 前から森林が好きだったが、さらに森、水、自然に興味を持った。
- ◎ **コミュニケーション能力や社交性の向上**
 - ・ 友達に対して以前より積極的にコミュニケーションを取るようになり、友達とより仲良くできるようになりました。
 - ・ 新しい友達にも自分から話しかけたり、一緒に遊んだりするようになった。
 - ・ 友達を大切にしようと思えるようになった。
 - ・ はじめて会う人とうまく会話がすることが苦手でしたが、5日間でみんなと仲良く行動できました。
 - ・ 4泊5日でたくさんのお友達に会い、いろんな人がいる事が分かった。その人の良い所を見つける事が大事だと思った。
 - ・ 人に挨拶ができるようになった。
- ◎ **好ましい生活習慣の獲得と自己管理能力の向上**
 - ・ 携帯電話をあまり見なくなった。
 - ・ 勉強に集中出来るようになった。
 - ・ 前よりも朝起きれるようになった。
 - ・ 食べ物を残さず食べるようになった。
 - ・ 成長できたことは自分で起きたこと、自分のことは自分でできたこと。
 - ・ 親にやらせてもらおうとしないで、自分から進んで、家事の手伝いや自分の身の回りの準備、布団たたみや服の整理をするようになりました。
 - ・ 家で自分の分の簡単な食事の支度 (例えば、卵かけご飯や納豆ご飯やカップラーメン、冷凍食品などとても簡単なものですが) を1人でできるようになりました。
 - ・ お手伝いするようになった。
- ◎ **主体的に物事に取り組む態度・困難を乗り越え物事を成し遂げる力の獲得**
 - ・ 2学期になってから、学校で全校集会の司会をしたり、運動会の応援団に立候補しました。授業でも手をたくさんあげられるようになりました。面談のときにも、先生からほめてもらえました。
 - ・ いろんなことを体験して、あきらめずに頑張れるようになった。
 - ・ 社会でめっちゃ手を上げるようになった。
- ◎ **その他**
 - ・ 魚釣りが上手になった (あれから魚釣りはしていませんが…)
 - ・ ご飯の量は多かったけど美味しかったです。
 - ・ 雑巾がけが上手になった。

※保護者の代筆含む

10. 保護者からみた体験活動の参加後の子どもの成長や

子どもの変化を感じる点 (フォローアップ調査)

「保護者からみた体験活動の参加後の子供の成長や子供の変化を感じる点」を表9に示す。回答から、保護者は、向社会的な行動 (例: お手伝いなど) の増加、他者への思いやりの態度、コミュニケーション能力の向上、精神面での落ち着き、自己管理能力の獲得や生活習慣の好ましい変